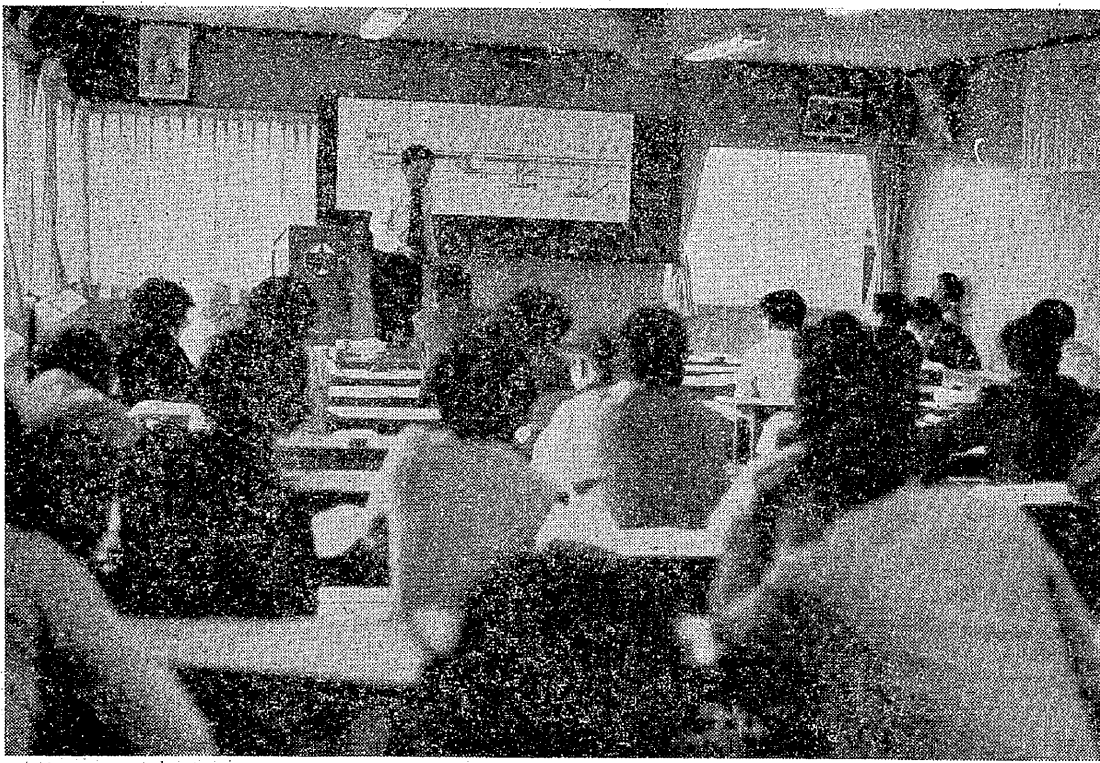




労災裁判学習会。藤本先生は、終始熱心に話してくださった。よくわかった裁判闘争の意義の重さ。

労災裁判闘争——

学習会

深まる裁判への認識

何をするかわからぬ三井

四月九日(日曜)の午後一時、三井労組は藤本正・本多俊之の両弁護士(いずれも大災害裁判担当)を講師に招き、三井指導部で「労災裁判闘争学習会」を開いた。原告団役員をはじめ三井労組中央委員、主婦会役員などが集まった。この日、まず藤本弁護士が「労働災害と職業病裁判の現状と問題点」につき基調報告。あと質疑応答を重ねながら学習を深めたが、この種の学習会はこれ迄終るのなく今後継続される計画だ。別項は、寄せられた感想である。

一CO患者

学習会で藤本弁護士は、裁判そのものではなく、訴訟前段階で、被害者の三井労組は、資本の人身安全と労働者の健康を確保する責任を負っている。労働者と結託し、国は他の企業と違つてなにするか

わからぬから訴訟はできない、といつていました。深く感銘しました。

一・一九大災害以来三井労組は、資本の人身安全と労働者の健康を確保する責任を負っている。労働者と結託し、国は他の企業と違つてなにするか

このように社会体制下でのこの裁判の勝利の展望は、ひとりでも多くの労働者の連帯を深め、災害の原因をさらに広く明らかにしなければならぬと思ひました。

溝口生松

政治を思うがままにしているかぎり、真実が歪曲され、労働者は資本主義社会を存続させていくためには、生命が奪われようが、傷つ

会社側証言ひっくり返して

勝利のため団結を

大災害裁判闘争に参加して

患者家族 田中正子

三井大災害裁判公判。三月二十三日午後一時開廷。村上証人(会社側)に対する原告組合側代理人弁護士の反対尋問。

同じく会社側の野口、木村両証人に対する、会社側代理人弁護士の主尋問。

前回証言では、清水保安監督官から指導があった前後清掃の頻度が減っていたと。三交替および常一審について、第一車庫(斜坑)電気、保線、機械は火災防止、故

発が如何にして発生したか、爆発の原因について話がありました。私等遺族は百五十一名で、昭和三十九年の九月三井山を、鉾山保安法違反、殺人罪を問うため福岡検察庁に告訴しましたが、検察庁は故意と認められず三年間もひき延ばした末、時効前になつてから、「原因不明。証拠不十分」ということで不起訴にする、と発表した。

患者家族 石原政子

当時の山根次郎検事は、「遺族の人にはお気の毒だが、私の説明を聞いて帰ってくださった」と言

たが、遺族は地獄の玄関に新聞を敷き座り込み、「絶対に帰らない」と奮闘が立った。

先生のお話によれば、あの時捲き上げ中だった十両の炭車の三両目のリンクが切断して、後部の七両が坑底に逸走した。その時電線が切れ、火花が散り、その火花が炭じんを引火して爆発をひき起こしたのであります。

会社側の証言では、大斜坑に炭じんはなかった、リンクが切れたのは不可抗力であつて、会社に責任はない、と主張を繰り返して

くりして目を覚まして、会社証人の証言に反駁しに取られて居た。うそつき。見えるはずがない。

会社証人はうそつきばかりじゃあ並べている。

私たちにはうそをひっくり返して、勝利のために団結しなければならぬ。これは自分たちのことだ。勝利の日まで手をとり合

い、助け合つて頑張りましょう。

れば勝つと思ひこんでいる人もいます。それはまちがいです。とくにお話で、労災裁判は弁護士にかせで勝利はむずかしいことをしみじみ知らされました。もっともつと弁護団との交流や裁判報告集などを開き、さらに世論に広く訴えていかねばならぬことがわかりました。

新聞「いのち」よ

三井指導部十九分会の新聞「いのち」は、その定期発行が目まぐるしく、各地から寄せられてくる便りや通信もよく紹介され、そして分

会に結集されたCO患者をばけま

は、その定期発行が目まぐるしく、各地から寄せられてくる便りや通信もよく紹介され、そして分

会に結集されたCO患者をばけま

は、その定期発行が目まぐるしく、各地から寄せられてくる便りや通信もよく紹介され、そして分

会に結集されたCO患者をばけま

は、その定期発行が目まぐるしく、各地から寄せられてくる便りや通信もよく紹介され、そして分

会に結集されたCO患者をばけま

は、その定期発行が目まぐるしく、各地から寄せられてくる便りや通信もよく紹介され、そして分

会に結集されたCO患者をばけま

は、その定期発行が目まぐるしく、各地から寄せられてくる便りや通信もよく紹介され、そして分

会に結集されたCO患者をばけま

お知らせ

この号には、せつかく準備していただいた「原告団消息」を、紙面の限界のために紹介できません。次号に掲げますので、よろしくお願ひいたします。

NO. 255	4月16日	1400
NO. 256	4月23日	1400
NO. 257	4月30日	1400
NO. 258	5月7日	1400
NO. 259	5月14日	1400
NO. 260	5月21日	1400
NO. 261	5月28日	1400
NO. 262	6月4日	1400
NO. 263	6月11日	1400
NO. 264	6月18日	1400
NO. 265	6月25日	1400
NO. 266	7月2日	1400
NO. 267	7月9日	1400
NO. 268	7月16日	1400
NO. 269	7月23日	1400
NO. 270	7月30日	1400
NO. 271	8月6日	1400
NO. 272	8月13日	1400
NO. 273	8月20日	1400
NO. 274	8月27日	1400
NO. 275	9月3日	1400
NO. 276	9月10日	1400
NO. 277	9月17日	1400
NO. 278	9月24日	1400
NO. 279	9月30日	1400
NO. 280	10月7日	1400
NO. 281	10月14日	1400
NO. 282	10月21日	1400
NO. 283	10月28日	1400
NO. 284	11月4日	1400
NO. 285	11月11日	1400
NO. 286	11月18日	1400
NO. 287	11月25日	1400
NO. 288	12月2日	1400
NO. 289	12月9日	1400
NO. 290	12月16日	1400
NO. 291	12月23日	1400
NO. 292	12月30日	1400
NO. 293	1月6日	1400
NO. 294	1月13日	1400
NO. 295	1月20日	1400
NO. 296	1月27日	1400
NO. 297	2月3日	1400
NO. 298	2月10日	1400
NO. 299	2月17日	1400
NO. 300	2月24日	1400

新聞「いのち」の一面